

国立研究開発法人国立がん研究センター理事会（平成 28 年度第 1 回）議事録

日 時 平成 28 年 4 月 28 日（金）10：00～11：30
場 所 国立研究開発法人国立がん研究センター 第 1 会議室
出席者 中釜 斉理事長 児玉 安司理事 南 砂理事 門田 守人理事
間野 博行理事
小野 高史監事 増田 正志監事
欠席者 松本 洋一郎理事

議事概要

平成 28 年度最初の理事会でメンバーの変更があったことから、理事長、各理事及び監事からご挨拶をいただいた。

I. 理事会（平成 27 年度第 12 回）議事録の確認

- ・議事録について、資料のとおり了承された。
- ・議事録署名人を児玉安司理事と小野高史監事をお願いした。

II. 審議事項

1. 月 1 日人事について

研究所先端医療開発センター長に 落合淳志に就任することで承認された。

2. NCC ゲノム医療推進本部の設置(案)について

NCC ゲノム医療推進本部の設置(案)について、NCC 内の各種プロジェクトの有機的連携を図り、関係者一丸となってゲノム医療を推進するとともに、政府の施策にもフィードバックしていことを目的にゲノム推進本部を設置する。

資料に基づき説明され承認された。

3. 重要な財産の取得について

医療機器整備計画（財投分）即時適応型放射線治療システム（ビューレイ）について資料に基づき説明をした。

臓器の移動に合わせて正確に放射線を照射するシステムである。現在の金マーカーを標的部位に埋め込んで、これを X 線透視で確認しながら照射する方法はあるが、透視に伴う被曝の問題があるため、断続的な透視でおおよその確認をしながら放射線照射を行っているのが現状である。本システムは被曝の心配をする必要のない MRI で位置確認を行うため、常に標的部位の位置を確認しながら放射線照射を行うものであり、原理的には究極の放射線治療機器と言える。米国で開発され、米国、ドイツ、日本の 3 極が中心として普及させたいとの企業の意向がある。システムとしての薬事承認は 6 月頃と聞いているが、現時点で適切な保険診療点数がないため、

当面は自由診療にて原価償却を図り、合わせて臨床データを収集する予定でいる。これにて期間内の原価償却は可能と判断している。

数値化はなくとも、理論的に理想的なシステムであることはわかるが、患者にとってのメリットが明確ではない。最初から自由診療にするのではなく、研究としてデータを収集するという手順も考えるべきではないか。

ご指摘の通り、理論的には理想的と考えられるが、患者さんへのメリットがどの程度大きいかについては明らかになっていない。がん病巣周囲の被曝する部分が減ることによって実際に出現する合併症が減少するのかは検証する必要がある。正確に照射が行えることにより一回の照射線量を上げ、照射回数を少なくできる可能性はある。

多数の症例でなくとも、一定のデータが揃えばアドバンテージがあることを提示できるであろうから、その段階で自由診療に移行してはどうか。

研究的側面できちっとしたデータを出した上で診療にするか大きな選択だと思う。

一定のアドバンテージを研究と示す方向について検討する。

患者の治療上・経済的なメリット・デメリットはどうか

治療上は、正確な照射による合併症の軽減と効果の増強、また照射回数の減少が期待される。経済的には、自由診療としても陽子線、粒子線の治療と比較すると半分程度である。

価格的には普及する可能性のあるシステムであり、当センターで評価して、適切な形で普及するよう体系づけすることも重要な使命と考えている。

研究計画をたて、それに対する評価を行い効果を患者に説明できるデータを出せるようにして、今後多少の修正を行うこととしたい。

Ⅲ. 報告事項

1. がん対策基本法改正案について

がん対策基本法改正案について資料に基づき報告がなされた。

2. 臨床開発環境整備推進会議（C I N）について

臨床開発環境整備推進会議（C I N）について資料に基づき報告がなされた。

3. 患者申出療養評価会議

患者申出療養評価会議について資料に基づき報告された。

4. 熊本地震関連情報

熊本地震関連情報について資料に基づき報告された。

5. 広報実績について

- ・ 3月19日から4月22日までの間にあったプレスリリース、取材申込み等について報告がなされた。

6. 3月分月次決算について

- ・ 平成28年2月までの実績に基づく平成27年度決算見込み及び平成28年2月分月次決算、病院指標等について報告がなされた。